



第60期中間報告書

平成24年4月1日 ▶ 平成24年9月30日

日本開閉器工業株式会社

■お問い合わせ

〒213-8553 神奈川県川崎市高津区宇奈根715-1
管理部：TEL.044 (813) 8026 FAX.044 (833) 5270

日本開閉器工業株式会社

スイッチ分野で世界のトップを目指す——

事業拡大よりもお客様に信頼され、感動していただける差別化された
特長ある企業を目指しています。

厳しい環境の中、北米市場が好調。 下期はGDにおけるNKKの存在価値を高め、 シェア拡大に全力を挙げます。



代表取締役社長
大橋智成

産業用スイッチ業界の状況と、 業績の概況をお聞かせください。

当社グループが所属する産業用スイッチ業界は、昨年
の東日本大震災後のいわゆる不安買いによって一時的に注文
が増加しましたが、サプライチェーンの早期回復による市
場の安心感が広がると過剰在庫状態を解消する動きに転じ
て年末にかけて出荷が減少し、当上半期も足踏み状態が
続きました。また、ギリシャの財政危機、欧米諸国の景気減速、
円高、原油・貴金属の高騰、中国市場の景気の鈍化など
から製造業の設備投資が減少しており、リーマン・ショック
直後を除けば近年で最も低調な時期でありました。

こうした中、当社グループは2年目となる中期経営計画
「Quantum Leap Breakthrough」の下、世界の産業用ス
イッチメーカーとなるべく北米市場におけるシェアアッ
プをビジョンに掲げ、グローバルディストリビューター（以
下GD）の拡販強化を中心に計画を推進してまいりました。
また、世界の工場から世界のマーケットへ変貌しつつある
中国市場をターゲットに設立した販売子会社「恩楷楷（上
海）开关有限公司」（NKK Switches China Co., LTD.）が
今年4月に営業を開始いたしました。企業環境は厳しい状
況が継続しておりますが、社員一人一人が原点に戻って「自
主性と責任」を全うする中でグループ一丸となって進みま
した。

次に市場別に振り返ってみますと、北米市場では、昨年
度下期からの好調を維持しており、半期としては受注、売
上高ともに現地通貨ベースでは過去最高となり、NKKグ
ループ全体の業績を牽引しました。しかしその他の地域で
は景気や設備投資の低迷等が響き、前期比でこそプラス成
長したものの、前年同期比ではマイナス成長という結果に
終わりました。日本市場では、ISシリーズ（多機能スイッチ、
以下IS）、特注品、タッチパネルの拡販、特定市場の開拓を
中心に、足で稼ぐ営業を積極的に展開してまいりましたが、
景況は最悪ではないものの厳しい環境が継続しております。
中国市場も今まで潤沢な公共投資に支えられて順調に成長
してまいりましたが、中国政府の金融引き締め策などによ
り公共投資も抑制されつつあり、中国経済の減速感が広
がっております。それでも2012年は通年で7.5%の成長が
見込まれており、まだまだ他の市場にはない可能性があり
ます。現地企業のNKKブランドに対する認知度も徐々に浸
透してきており、この上期も順調に売上を伸ばしております。
なお、広東省東莞市にある中国工場は反日デモのリスクを
回避するため1日半操業を中止しましたが、被害はありません
でした。

これらの結果、連結売上高は35億7千4百万円（前年同
期比4.1%減）、連結営業利益は3億8百万円（前年同期比
1.2%減）、連結経常利益は2億8千1百万円（前年同期比0.6%
減）となりました。

中期経営計画の進捗と、 現時点での評価をお聞かせください。

当社グループは、中期経営計画のトッププライオリティーに「北米市場におけるシェアアップ」を掲げております。その大きな役割を担っているのがGDであります。GDの売上高は過去最高を記録し、主力製品であるISも過去最高に迫る勢いでした。これは特別な要因があったわけではなく、過去から取り組んできた地道な営業活動が花開いたものです。産業用スイッチは生産財という性格上、参入するまでに時間がかかりますが、一度参入できれば長く使っていただけるため、今後も安定した売上を予測することができます。このように、NKKグループとして精力的に取り組んできたことの成果が着実に現れてきたことは一定の評価ができるものと思われま。

一方、特定市場の開拓につきましても依然から精力的に取り組んでおりますが、売上という形で成果が現れるまでにはもう少し時間が掛かると思われます。ただし、成長している市場ではタネをまいてから伸びるまでが早く、

花が咲くまでの期間が短いものです。特に、中国の特定市場について新規の引き合いが好調であり、これが今後の受注につながることを期待しております。

ただし、中期経営計画の進捗につきましては、まだまだ及第点には遠いと自己評価しております。業績は深刻な状況ではないものの、停滞感があることは否めません。NKKグループが目指している目標は、もっと高いところにあります。そこへ導くことがトップである私の手腕に懸かっており、今一度ネジを締め直して、ゴールを目指してまいります。

新基幹システムの導入によって、 どう改善されるのでしょうか。

当社グループでは、これまでの「品質」「技術」に加えて、新たな付加価値として「スピード」を武器にするため納期改革を推進しております。それを実現するためのひとつとして、新基幹システムの導入を目指し最終調整を続けております。システムの名称は「ANSWER」と命名しました。「ANSWER」とは、Advanced NKK System for Worldwide

Enhancement and Readiness（ワールドワイドに対応する強化した迅速な先進型NKKシステム）の頭文字を当てたもので、今まで果たせなかった「スピード」に答えを出す、顧客ニーズに対応した納期を回答する、という想いを込めております。

「ANSWER」には今までの基幹システムである「NEEDS」にはなかった先進的な機能が盛り込まれていますが、もちろん、新しいプログラムを稼働させることのみで納期を早められるというものではありません。いろいろな連携によって、最終的な「納期」という産物が出てきます。例えば大口受注を受けた場合、通常では、平常の生産能力ではお客様の納期要望に応えることはできません。しかしながら営業マンがお客様と交渉し、今月中にすべてのものを納品することはできない場合でも分納で合意できれば、納期を守ることができるわけです。こういう交渉はコンピューターにはできません。営業マン、いわゆる「人間」が機能してはじめてできることです。このように新基幹システム「ANSWER」では、先進的な機能付加だけでなく、コンピューターができる部分と人間ができる部分のバランスを最適化させることにより目標とするスピードに近づけ、メーカーとしての役割のひとつである「供給責任」を「スピード」という付加価値をつけて市場に提供し、さらなる競争優位性を高めてまいりたいと考えております。

下期に発表の新商品の予定について お聞かせください。

当期は4月2日に発行された「NKK NEWS」にて今後の発表予定商品を公表しており、上期は3商品を発表することができました。下期にはNKK独自のアーケ遮断構造を採用した直流高電圧対応のスイッチと、LCD（液晶）表示エリアを拡大したISシリーズを発表する予定です。当社グループのLCDやOLED（有機EL）表示付きのISは現在、北米市場やヨーロッパの特定業界で大きなシェアを誇っており、

お客様より高い評価を受けております。今後もお客様の業務改善につながる価値ある商品を開発して、メーカーとしての責任を果たしてまいります。

下期の営業方針をお聞かせください。

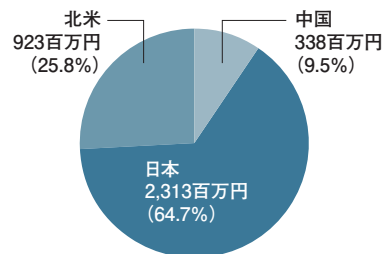
基本的な方針はこれまでと同じですが、さらに質を高めていく考えであり、中期経営計画に掲げた5つの販売強化項目の取り組みを極めます。やはり、ここでも鍵を握るのはGDによる販売です。NKKグループは世界のトップグループのGDと世界販売契約を締結し、情報提供や製品教育等を行うなど時間をかけて信頼関係の構築に努めてまいりました。その戦略が功を奏し、売上高は順調に伸びてきております。さらに上を目指すため、GDに対してこれまで以上に積極的に働きかけ、現場レベルにブランド力の浸透を図ってまいります。現在のNKKグループの目標は、あくまで北米市場においてシェア10%を獲得することです。そのため必要に応じて戦略を適宜見直ししながら、何としましても達成したいと考えております。

最後に株主様へのメッセージをお願いします。

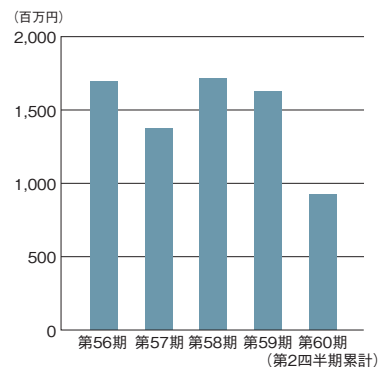
当期下期の産業用スイッチ業界におきましては、国内海外市場ともに厳しい経営環境が続くものと思われま。NKKグループといたしましては、業界の勝ち組となるべくさらなる競争力の強化、体質強化に尽力することを基本姿勢として、メーカーとしての役割・責任の部分を強化し、市場での存在価値を高めていきたいと考えております。株主の皆様におかれましてはNKKグループの取り組みをなにとぞご理解いただき、これまでと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ 地域別売上高の推移

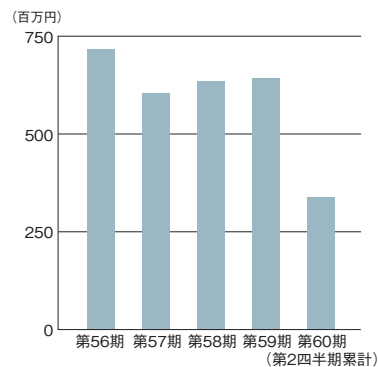
● 地域別売上高構成（第60期第2四半期累計）



● 地域別売上高の推移（北米）



● 地域別売上高の推移（中国）

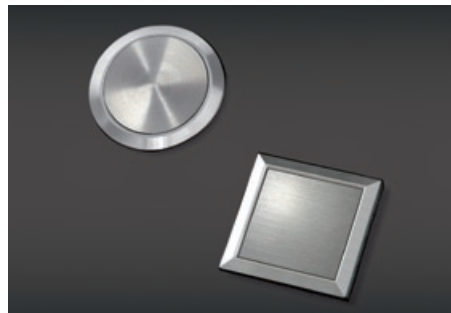


新商品

ステンレス調フランジ・ボタン、新2色変換表示ボタン
更にラインナップを充実

FA/OA機器をはじめ、広範な産業分野の機器に搭載実績のあるYB2シリーズ。2008年の丸形の発売以降、丸形外輪照光、角形などお客様のニーズに応じてラインナップを充実してきました。更に今秋、高級感ある洗練されたヘアラインの外観を採用したステンレス調のフランジ・ボタンが加わりました。軽量化を実現し、金属製では不快に感じた金属のこすれ合いもない軽快な操作感を実現しました。また、はんだ端子/PC基板取付けに対応したLP01・YB・YB2シリーズ共有のソケットも同時に発売しました。

更に2008年の発売当時、画期的な新機構で業界に新風を巻き起こした2色変換表示ボタンは、1つのスイッチで押すごとに発光色と表示文字が変わるというNKKらしい独自性あふれるスイッチです。UB2、NP01の2シリーズで展開していましたが、新たにKP01、KP02そしてUBシリーズへと広がりを見せています。2色の色も赤・緑に青・橙が加わり、スイッチの赤色発光を緊急色としている医療などの分野へその可能性を広げつつあります。



▲YB2シリーズ(ステンレス調)



▲UB2シリーズ(2色変換表示)

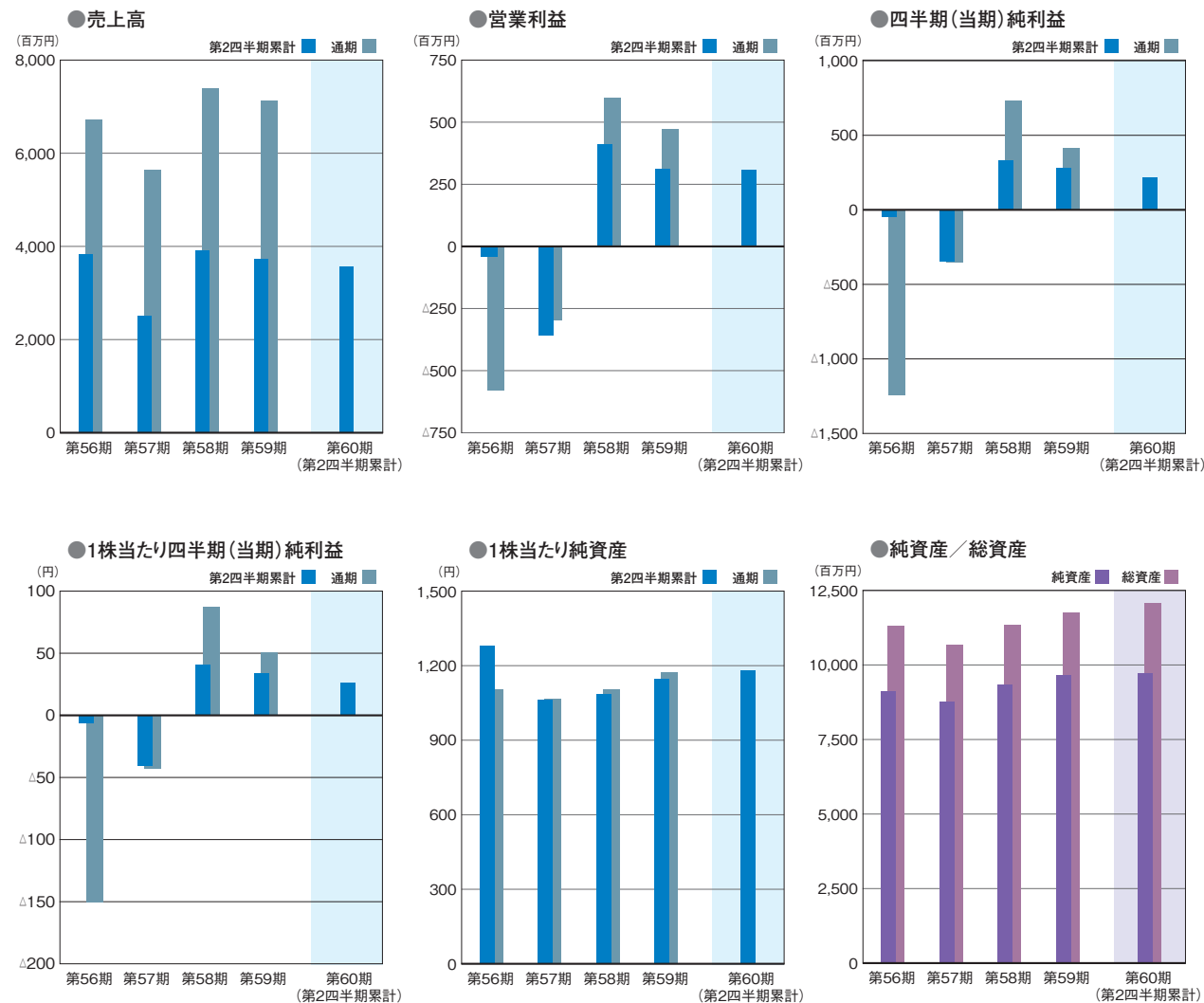
展示会

商品に直に触れていただいでファンになっていただく

国内ではMedtec、CEATEC、InterBEE、海外ではIBC、electronicaなどターゲット分野の展示会に、その業界のニーズに合わせた商品を出展。世界の潜在ユーザに商品を直に操作していただく機会は、重要な商品性能、仕様を訴求できます。会場でいただいた多くの意見は次の製品開発への重要なヒントになることもあります。分かりやすく効果的な商品説明は次のビジネスチャンスへつなげます。



▲IBC展



■ 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日現在)	
	当第2四半期連結会計期間末 (平成24年9月30日現在)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日現在)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,819,334	5,715,625
受取手形及び売掛金	1,347,804	1,298,013
商品及び製品	726,890	621,848
仕掛品	7,471	56,820
原材料及び貯蔵品	1,136,128	1,031,719
繰延税金資産	160,804	211,129
その他	83,235	70,390
貸倒引当金	△ 2,310	△ 2,337
流動資産合計	9,279,358	9,003,211
固定資産		
有形固定資産	1,406,761	1,451,769
無形固定資産	373,270	259,416
投資その他の資産		
繰延税金資産	42,565	—
投資その他の資産	963,309	1,043,200
投資その他の資産合計	1,005,874	1,043,200
固定資産合計	2,785,906	2,754,386
資産合計	12,065,265	11,757,597

(単位:千円)

科目	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日現在)	
	当第2四半期連結会計期間末 (平成24年9月30日現在)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成24年3月31日現在)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,343,407	983,148
1年内返済予定の長期借入金	—	6,120
未払法人税等	50,939	11,631
引当金	119,431	132,626
その他	391,617	488,255
流動負債合計	1,905,395	1,621,781
固定負債		
長期借入金	—	19,399
繰延税金負債	13,745	41,202
役員退職慰労引当金	154,300	187,500
退職給付引当金	146,732	108,189
その他	115,450	115,450
固定負債合計	430,227	471,740
負債合計	2,335,623	2,093,521
純資産の部		
株主資本		
資本金	951,799	951,799
資本剰余金	833,305	833,305
利益剰余金	8,552,589	8,378,504
自己株式	△ 157,687	△ 157,360
株主資本合計	10,180,006	10,006,248
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△ 13,577	43,649
為替換算調整勘定	△ 436,788	△ 385,821
その他の包括利益累計額合計	△ 450,365	△ 342,172
純資産合計	9,729,641	9,664,076
負債純資産合計	12,065,265	11,757,597

■ 四半期連結損益計算書

(単位:千円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	
	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	3,574,881	3,727,328
売上原価	2,157,998	2,226,364
売上総利益	1,416,883	1,500,963
販売費及び一般管理費	1,108,484	1,188,920
営業利益	308,399	312,043
営業外収益		
受取配当金	11,434	14,732
受取賃貸料	4,694	4,654
その他	4,915	8,144
営業外収益合計	21,044	27,531
営業外費用		
支払利息	761	976
売上割引	7,791	—
賃貸収入原価	2,315	2,588
為替差損	37,265	52,760
その他	216	595
営業外費用合計	48,351	56,920
経常利益	281,091	282,654
特別利益		
投資有価証券売却益	—	630
特別利益合計	—	630
特別損失		
固定資産除却損	403	—
特別損失合計	403	—
税金等調整前四半期純利益	280,688	283,284
法人税、住民税及び事業税	54,527	4,418
法人税等調整額	10,888	646
法人税等合計	65,415	5,065
少数株主損益調整前四半期純利益	215,273	278,219
四半期純利益	215,273	278,219

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	
	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	527,249	450,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 327,360	△ 89,354
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 66,782	△ 45,504
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 29,397	△ 33,049
現金及び現金同等物の増減額	103,708	282,184
現金及び現金同等物の期首残高	5,715,625	5,203,764
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,819,334	5,485,948

■ 会社概要

商号	日本開閉器工業株式会社 (NIHON KAIHEIKI IND. CO., LTD.)
創業	昭和26年4月1日
設立	昭和28年12月11日
資本金	951,799千円
従業員数	連結234名 単体160名
本社事務所	〒213-8553 神奈川県川崎市高津区宇奈根715-1
事業所	名古屋営業所 大阪営業所 福岡営業所
主な事業内容	産業用各種スイッチの製造・販売
連結子会社	横浜パオニクス株式会社 NKK Switches of America, Inc. 日開香港有限公司 恩楷楷(上海)开关有限公司
ホームページ	http://www.nikkai.co.jp/
上場取引所	大阪証券取引所 (JASDAQ)

■ 取締役および監査役

代表取締役社長	大橋 智 成
常務取締役	市川 忠 夫
取締役	青木 明 裕
取締役	大橋 宏 成
取締役	塚 正 勉
常勤監査役	中村 正
監査役	佐藤 悦 雄
監査役	坂本 哲 夫

■ 株式の状況

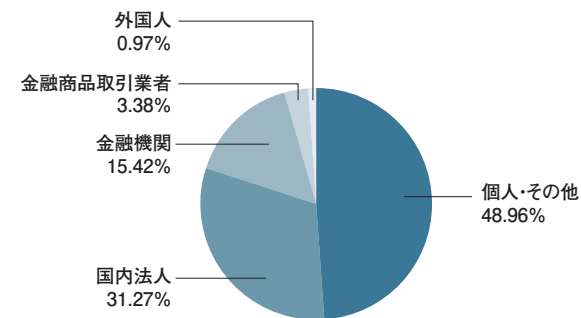
発行可能株式総数	26,000,000株
発行済株式の総数	8,425,200株
株主数	676名

■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社ビッグブリッジ	1,320	15.66
株式会社三井住友銀行	410	4.87
大橋 幹雄	370	4.40
株式会社三菱東京UFJ銀行	348	4.13
大橋 宏成	293	3.47
大橋 尚子	280	3.33
太陽生命保険株式会社	225	2.68
大橋 智成	192	2.28
春日井 明子	162	1.93
東洋証券株式会社	158	1.87

(注) 1. 当社は、自己株式を187千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 所有者別持株比率



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
公告方法	当社ホームページ http://www.nikkai.co.jp/において、電子公告いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告いたします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・「配当金計算書」について
配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。